



第 34 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会

コーヒーブレイクセミナー②

在宅酸素療法施行中の患者への セルフマネジメント支援とACP



座長 今戸 美奈子 先生

高槻赤十字病院 看護部
慢性疾患看護専門看護師

演者 竹川 幸恵 先生

大阪はびきの医療センター
慢性疾患看護専門看護師

2024年

日時 11月15日 [Fri.] 15:25 ~ 16:05

場所

名古屋国際会議場

D会場（2号館2F）会議室222+223

〒456-0036 愛知県名古屋市熱田区熱田西町1番1号

※整理券の配布はありません

共催：第34回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 / 星医療酸器グループ

在宅酸素療法施行中の患者へのセルフマネジメント支援とACP

地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪はびきの医療センター

竹川 幸恵 先生

慢性呼吸器疾患は、増悪と改善を繰り返しながら緩徐に進行し、やがて在宅酸素療法 (home oxygen therapy:HOT) が必要となります。HOT は、患者が生活の中に酸素療法を取り入れることにより、息切れの軽減を図り、日常生活動作の改善や趣味・社会活動を継続させ、クオリティ・オブ・ライフ (Quality of Life : QOL) を向上させるための医療であり、患者のセルフマネジメント行動は不可欠です。

しかし、実際に HOT を導入した患者は、息切れの軽減と行動範囲の拡大を体験する一方で、鼻カニューラや酸素ポンプを使用する体裁の悪さや生活の煩わしさなどからアドヒアランスの低下をきたし、酸素療法を生活の中に取り入れることを困難に感じていることが少なくありません。また、疾患の進行に伴い息切れが増強し活動制約を強いられ、趣味・役割の喪失や他者依存などにより、自尊感情の低下や社会的孤立をきたして心理社会的問題をもたらし、さらにセルフマネジメント行動を困難にします。

では、緩徐に進行する慢性呼吸器疾患を持つ患者が、HOT を生活の中に取り入れ、望む生活を実現し QOL を向上させるためには、どのようなセルフマネジメント支援が必要なのでしょうか。

2022年に上梓された「呼吸器疾患患者のセルフマネジメント支援マニュアル」は、患者が、セルフマネジメント行動を継続できるようにセルフマネジメント教育をコアとした、調整、ACPを含む意思決定、システム構築、専門職育成を柱とする「統合されたセルフマネジメント支援」について解説しています。

本セミナーでは、「統合されたセルフマネジメント支援」に基づき、特にセルフマネジメント教育とACPについて事例を用いて述べさせていただきます。



ほっと いきいき Diary

在宅酸素療法施行中の患者様向け
療養日誌をリニューアル!

ACP(アドバンス・ケア・プランニング)に役立つ価値観シートを追加しました。well-being を実現させる一つの支援ツールとしてご活用いただけます。

